「卓越大学院プログラム」中間評価結果

機関名	名古屋大学	整理番号	2002
プログラム名称	ライフスタイル革命のための超学際移動イノベーション人材養成学位プログラム		
プログラム責任者	佐宗　章弘	プログラムコーディネーター	河口　信夫

（評価決定後公表）

（総括評価）

- □　Ｓ：計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる。
- ■　Ａ：計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。
- □　Ｂ：一部で計画と同等又はそれ以上の取組も見られるものの、計画をやや下回る取組もあり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。
- □　Ｃ：取組に遅れが見られ、一部で十分な成果を得られる見込みがない等、本事業の目的を達成するために当初計画の縮小等の見直しを行う必要がある。見直し後の計画に応じて補助金額の減額が妥当と判断される。
- □　Ｄ：取組に遅れが見られ、総じて計画を下回る取組であり、支援を打ち切ることが必要である。

［コメント］

大学院全体の改革を実現する卓越した学位プログラムの確立については、卓越大学院の４プログラムが連携し、未来社会創造機構および博士課程教育推進機構をつくっているが、その実践と成果は「集団指導・学修体制」などに体現され、機能していると評価できる。岐阜大学との連携については、本プログラムの講義を岐阜大学に提供する準備が進められている段階にとどまっており、今後さらなる相互的な連携の深まりが期待される。

修了者の高度な「知のプロフェッショナル」としての成長及び活躍の実現性については、プログラム参加学生の意欲はきわめて高く、ブートキャンプや社会調査への参加などをとおして、文理融合的な取り組みが一定の成果をあげていると評価できる。全般にアカデミア志向の学生が多く、ベンチャーや起業への関心をさらに高めるような取り組が期待される。

高度な「知のプロフェッショナル」を養成する指導体制の整備については、Redefine the Distance というミッションステートメントが明確になったことが、関係者のモチベーションを高めたと評価できる。文系学生が興味を持てるような情報提供、インセンティブ提供も工夫されていると評価できる。

優秀な学生の獲得については、準履修生制度の導入などの工夫が評価できる。計画を上回る数の学生が、しかも６研究科にわたって履修生として参加している点、女性、留学生の割合が高い点も評価できる。

世界に通用する確かな質保証システムについては、KPI の達成度が高くないことが課題である。国際学会への参加の奨励や指導体制の強化など、達成度を高めるための着実な努力がさらに期待される。

事業の継続・発展については、未来社会創造機構および博士課程教育推進機構、超学際人材育成室などの整備が積極的に行われ、アドバイザリー会議も設置され、PDCA を実施する体制となっていることは評価できる。

未来社会創造機構の外部資金約 20 億円/年の 10%程度の活用で本プログラムは維持可能とのことであり、本プログラムへの地元企業等の関心も高いことから、外部資金の調達の現実性に関しては期待が持てると評価できる。